

エルガシェウ・シャフゾド
タジキスタン出身
東京外国語大学 総合国際学研究科 修士課程

イベント全体についての感想

今回、男女間平等というテーマで行われたイベントは私にとって非常に面白かったです。坂口財団の奨学生の皆様が「私が見た、感じた、ジェンダー・ギャップ」についてさまざまな自分の意見を述べていました。元々私は今までジェンダー・ギャップについて全く考えたことがありませんでした。なぜかというと私の母国であるタジキスタンで、ジェンダー・ギャップについて政府の取り組みなどを見たことが無いからです。現在、ジェンダー・ギャップが世界で問題になっていること、それに対する政府の取り組みなどのさまざまな情報を今回のイベントを通して知りました。私にとってあまりなじみがないテーマでしたが、いろいろ調べ、タジキスタンにおけるジェンダー・ギャップの状況についてできる限り自分の意見を発言しました。

坂口財団の奨学生の意見を聞いて、数年前よりも現在はジェンダー・ギャップがあらゆる面でなくなっていると思いました。また、アジアよりヨーロッパのほうがジェンダー・ギャップの問題に真摯に取り組んでいると感じました。イベントでは様々な意見が飛び交い、女性達は家事や育児に追われ、育休を取り、一時的に仕事を休まざるをえないことがしばしばあると再認識しました。やはり、女性達が社会で活躍できる環境作りを行っていくことが今後の課題です。

また、今回のイベントを通して、私は自分の母国タジキスタンの現状についても深く考えました。タジキスタンでは、労働者の給料に男女格差はありません。しかし男性は外で働き、女性は家で家事をするという考えが、いまだに人々の間で根強く残っています。現段階では、政府がこの問題に取り組む可能性は低いと思われます。それゆえに、

ジェンダー問題を認知している数少ないタジキスタンの者として、今後我が国で声を上げてこの問題の改善に尽力していきたいです。

私は母国で暮らしていたときに、ジェンダー問題に関して一度も耳にしたことはなかったです。それだけに、自分の知見はまだまだ狭いものであり、かつ自分の考え方はずローバルなレベルになりと痛感しました。今後も坂口財団様が開催するイベント等を通じて、世界基準の知識、考え方を身に附けているよう頑張りたいです。

以上